

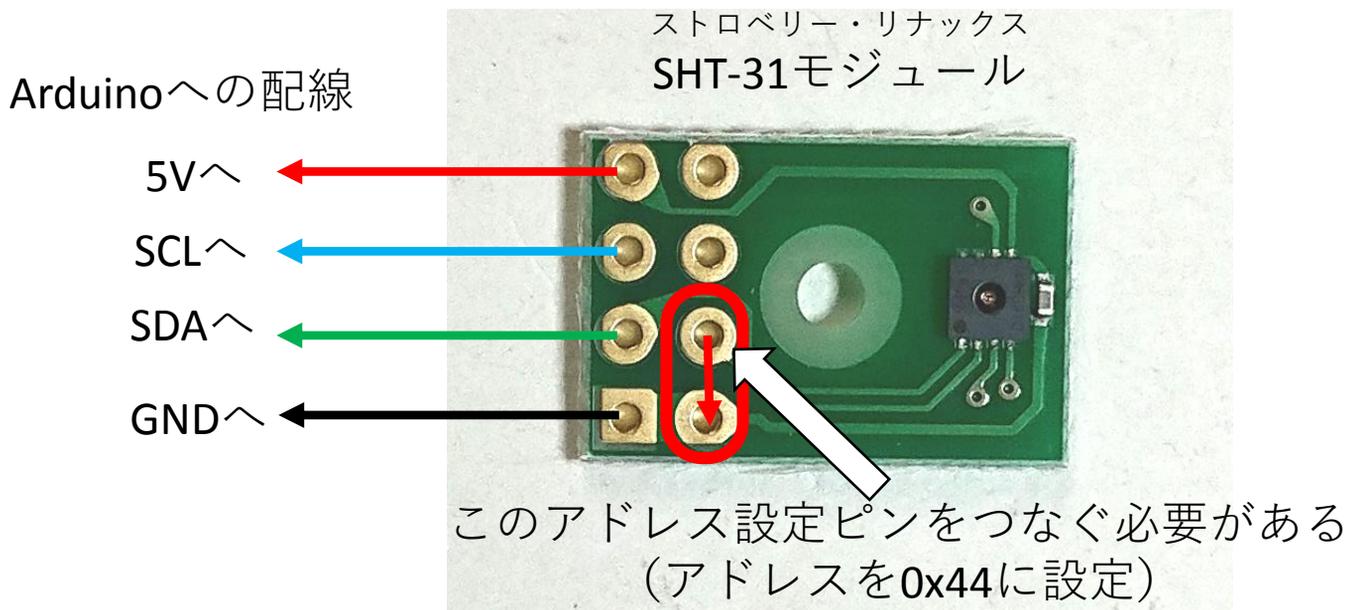
温湿度センサSHT31モジュールを使用する際の の注意点

この文書はSHT31モジュールをArduinoに接続する時の取り扱いについて、注意点を記載したものです。

書籍「ICT農業の環境制御システム制作」のP79にある説明でもストロベリー・リナックス社のモジュールのアドレス設定の説明が抜けていましたのでここで補足させていただきます。

ストロベリー・リナックスのSHT31 モジュールを使うときの注意点

SHT31にはアドレス設定ピンがあり、これでI²Cアドレスを設定する必要がある。



ストロベリー・リナックスのSHT31モジュール

を使用する場合、アドレス設定ピンをGNDに接続する必要がある。これでアドレスが0x44に固定される。

このモジュールでアドレス設定ピンをオープン(どこにも接続しない状態)にしてはいけない。

標準と違うアドレスのSHT31を使う場合



秋月電子AE-SHT31などはデフォルトアドレスが0x45になっている。

```
TempHumidSensor_SHT3x | Arduino 1.8.5
ファイル 編集 スケッチ ツール ヘルプ

TempHumidSensor_SHT3x$ sht3x.cpp sht3x.h
189 //-----
190 void UserEveryMinute(){
191 }
192 //-----
193 void UserEveryLoop(){
194 }
195
196 //-----
197 void loop(){
198 UECSloop();
199 }
200
201 //-----
202 void setup(){
203
204 sht3x.begin(0x45); ←
205 UECSsetup();
206 }
207
208
209
210

ボードへの書き込みが完了しました。
最大32256バイトのフラッシュメモリのうち、スケッチが26998バイト (83%) を使っています。
最大2048バイトのRAMのうち、グローバル変数が1317バイト (64%) を使っていて、ローカル変数で

204 COM30のArduino/Genuino Uno
```

UARDECSのサンプルプログラムはSHT31のアドレスを0x44としているが、違うアドレスで使用する場合は、図のsht3x.begin();のカッコ内にアドレスを指定することができる。